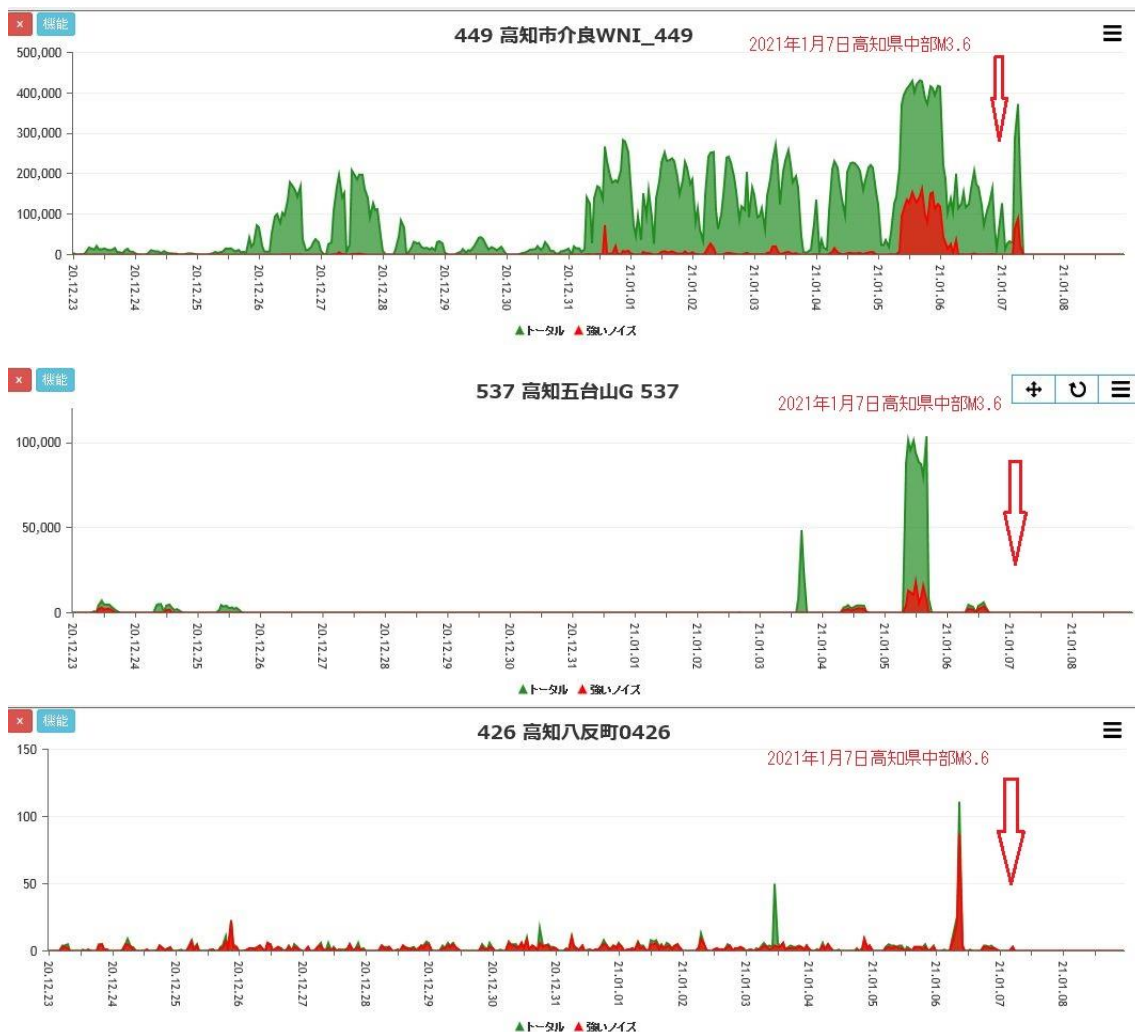
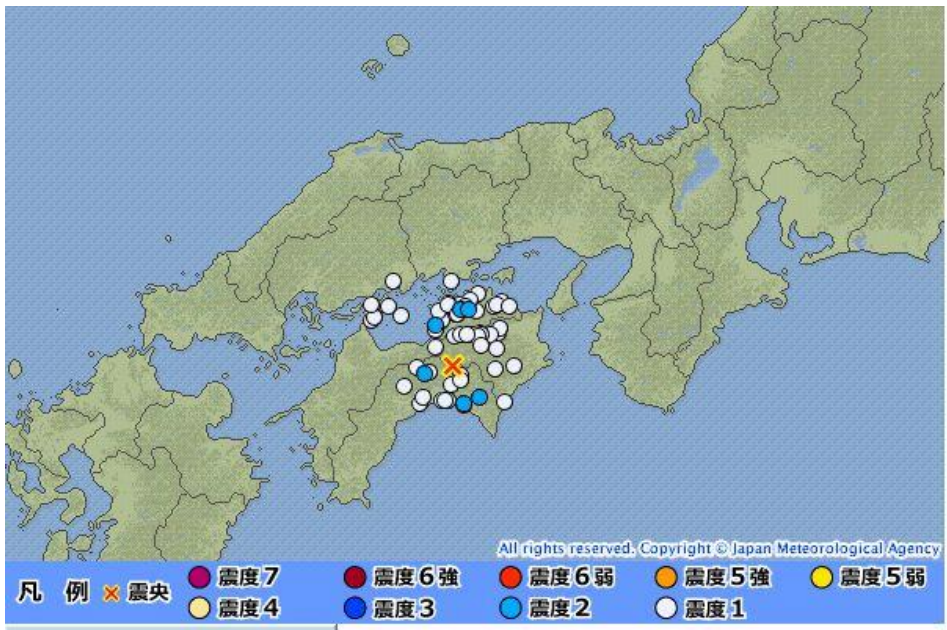


210107 高知県中部 M3.6 について

昨年11月ごろより高知市介良449の長期データの収束について 対岸の和歌山—Aの長期データの収束と関連して検討してきていますが いまだ大きな地震は発生していません。そして収束傾向を続けていた高知市介良449のデータが12月31日ごろから再度大きくなってきて、さらに1月5日にMAX50万の幅のある1本立ちが出ました。同じ日に高知市五台山にもMAX10万を超える幅のある1本立ちが出て、高知市八反町には翌日の1月6日に小さい1本立ちが見られます。

そして本日、1月7日の午前4時17分に 高知県中部でM3.6の地震が発生しました。これまでに近畿—関西地方で大きなデータが出ているのは 伊勢—和歌山—高知—大分という中央構造線に沿った観測点ですが この高知県中部M3.6の地震の震源は まさにその中央構造線のほぼ中間位置になります。したがって 伊勢—和歌山—高知—大分という大型データとの関連も考えられ、あるいはこの先に控えている大地震の前震の可能性もあるかと思われれます。参考まで。





この地震の各地域・市町村の震度

各地の震度に関する情報

令和 3年 1月 7日 04時20分 気象庁発表

7日04時17分ころ、地震がありました。
震源地は、高知県中部（北緯33.8度、東経133.8度）で、震源の深さは約40km、地震の規模（マグニチュード）は3.6と推定されます。

中央構造線>

210104異常の出ている

観測点 ○ 大分、広島、高知、和歌山、伊南、伊勢 四日市

